

復刻版

まんがうつのみやの歴史

復刻版の内容について

前のページまでの内容は、平成八(一九九六)年度にまんが本が発表されたときと同じであり、まんがの本文、歴史年表や関連する事項など、また、漫画家、シナリオライター、監修者の方々の紹介などもその時と同じ内容のままです。

次のページからは、復刻版として新たに追加した内容として、復刻版の作成の目的や、最初の発刊以降、上河内町、河内町との合併などをはじめ宇都宮に関係した出来事などを追加で記載しています。また、統計資料なども新しい内容にしました。

できるだけ多くの皆様に、私たちの郷土宇都宮の輝かしい歴史や著名な人物のことなどを、後世の人たちへ伝えていくことができればと思っています。

宇都宮まちづくり推進機構

復刻版の発刊にあたって

特定非営利活動法人宇都宮まちづくり推進機構
理事長 須賀英之

宇都宮市は、歴史上の傑出した人物や貴重な歴史遺産なども数多く、全国でも有数の歴史・文化都市であります。市民の皆様にとって郷土の歴史は、過去から現在、未来へと続く精神的な支えであり、特に子どもたちの地域への愛着心や郷土愛を育くむことは、宇都宮市の歴史・文化を次の世代に伝える意味でも、また、市民共通の土台づくりとして今後の宇都宮市のまちづくりの観点からもちたいへん重要であるといえます。

平成八（一九九六）年四月、宇都宮市は市制一〇〇周年を迎えた記念の年に、市民の皆様は郷土の歴史に思いをめぐらし将来への新たな期待と夢を育くんでいたであろう『まんがうつつのみゃの歴史』を発刊し、市内の小中学生を中心に配布いたしました。

今般、当推進機構では、この本を手軽に読むことのできる歴史の本として、継続して小学生を中心に市民の皆様にも読んでいただくことで、宇都宮市の歴史伝承のきっかけにしたいという思いから復刻版を作成いたしました。

最初の発刊から一七年が経過し、宇都宮市は市町合併等を経て北関東唯一の五〇万都市として発展を続けておりますが、この復刻版の発刊をきっかけに改めて多くの先人たちが残した歴史に思いを馳せ、郷土のすばらしさを実感していただくとともに、今後とも後世に誇れるまちづくりにつながる機運が高まっていくことを期待したいと思います。

最後に、この本は企業などをはじめ多くの市民の皆様のご協賛により作成しております。ご協力いただきました皆様方に深く感謝申し上げます。

平成二六（二〇一四）年三月

五〇万人の都市宇都宮

一九九六～二〇一三年 本市の出来事

宇都宮市文化財保護審議委員会委員 大嶽浩良

宇都宮市は二〇〇七（平成一九）年三月三日、河内町・上河内町を編入合併して北関東初の五〇万都市となった。新市の面積は約四一七平方キロメートル、人口は一市で本県の約四分の一を占める巨大都市の誕生である。一九九七（平成九）年九月、県人口が二〇〇万人を突破したが、ピークは二〇〇六年で、以降減少傾向に入った。宇都宮の場合は二〇一五（平成二七）年を頂点として、いずれ減少に転ずると予測されている。

市制一〇〇周年を祝った一九九六（平成八）年に宇都宮環状道路（宮環）が全線開通し、モータリゼーションの波に対応した都市づくりが進められ、二〇一（平成二三）年には北関東自動車道が全線開通し、栃木・群馬・茨城の三県を横断する約一五〇キロメートルが高速道路で結ばれた。

しかし、市制一〇〇周年以降の宇都宮市にとって経済的には決して明るい話題ばかりではなかった。二〇〇一（平成一三）年には宇都宮信用金庫が破綻した。

多額の不良債権を抱え、債務超過に陥いつたため、県内では戦後初の金融機関破綻であった。宇信金に留まらず、足利銀行にも金投入が決まるなど、金融界の激変は低迷する経済の象徴となった。そして二〇〇三年、足利銀行が経営破綻し、一時国有化となった。県内シェア五割のガリバー金融機関が、創業一〇八年の歴史に幕を閉じたのである。

足銀はその後四年七か月を経た二〇〇八（平成二〇）年七月、野村グループが受け皿となって民営化された。同グループが設立した金融持ち株会社足利ホールディングスが、預金保険機構から足銀株を二二〇〇億円で取得し、同行を完全子会社とした。その際、地域の中核的金融機関としての役割を果たしていくことが強調された。そして、五年後の二〇一三（平成二五）年一月、東京証券取引所は足利銀行の上場を承認した。経営破綻から約一〇年振りに株式市場に復帰し、名実ともに経営再建を果たしたのである。

この間、市内中心部における都市空洞化の動きは進んだ。二〇〇二（平成一四）年十一月、市内馬場通り二丁目で一時代を築いてきた西武百貨店宇都宮店が閉店し、三一年間の歴史に幕を閉じた。数々の人気ブランドを宇都宮に進出させ、洗練された都市型の百貨店として存在感を示し、全国物産展など百貨店のイベ

ントを県内に定着させた。しかし、市中心部の空洞化や競争激化による売り上げ低迷、消費者ニーズの変化に対応できなかったことなどから、撤退を余儀なくされた。二〇〇〇年末の上野百貨店倒産に続き、宇都宮の顔がまた一つ消え、さらに二〇〇三年一〇月には、JR宇都宮駅西口のロビンソン百貨店宇都宮が閉店と、わずか三年間の内に宇都宮市内から三つの百貨店が姿を消した。

この動きと反比例するかの如く、周辺地域に複合商業施設が設立されていった。二〇〇三(平成一五)年七月には、県内最大のショッピングモールがオープンした。店舗面積四一五〇〇平方メートルを誇る大型店「FKDショッピングモール宇都宮インターパーク店」が、宇都宮市南部の工業流通団地・インターパーク宇都宮南にオープンした。

さらに翌年、北関東最大級の複合商業施設ベルモールが市内陽東六丁目の工場閉鎖した跡地にオープンした。ベルモールは二館に分かれ、西館はイトーヨーカドーと一七の専門店で構成され、東館はシネマコンプレックス(複合映画館)である。

一方、中心部にあっては県庁の建て替えて、県庁舎の保存問題がわき上がった。二〇〇一(平成一三)年の県知事選で争点となったが、移転を含め計画の全面

見直しを掲げて初当選した知事は、県議会で計画の早期着工を求める促進決議をした各党派と激しく対立し、結局基本方針は「現在地建て替え」を主張する県議会に配慮する一方、本館保存で公約との整合性を図るかたちで決着した。以後、県庁舎整備計画は最終決着に向け急進展した。そして二〇〇八(平成二〇)年一月、県政史上五代目となる新栃木県庁舎が開庁した。総事業費五三〇億円、計画では一八階建てだった本館が三階分削られるなど曲折もあったが、県都を一望できる一五階展望ロビーが人気を集め、来館者は一年を経ず五〇万人を突破した。

歴史への見直し、保存運動への機運もわき上がり、二〇〇七(平成一九)年三月には、宇都宮城の本丸の一部、即ち本丸土塁の一部と土塁上に建つ富士見櫓、清明台櫓、および土塀が復元完成し、市の新たな名所となり、静かな時間が流れている。一方、市の東部の竹下町、鬼怒川左岸にある飛山城跡は一九七七(昭和五二)年に国指定史跡であったが、地元住民の地道な運動もあり、二〇〇五(平成一七)年三月に飛山城史跡公園となった。維持管理業務は特定非常営利活動法人飛山城愛護会が担うことになり、地元住民に支えられた史跡となり様々な文化活動が続けられている。

二〇一一(平成二三)年三月一日午後二時四六分、

三陸沖を震源に発生したマグニチュード九・〇の巨大地震である東日本大震災が発生した。県内でも宇都宮・真岡・大田原・高根沢・市貝の五市町で震度六強を記録、強い揺れにより甚大な被害に見舞われた。県内の死亡者は計四人、負傷者は一三三人に上る。ライフラインも混乱した。地震直後は五六万八千世帯で停電。水道断水は鬼怒川左岸地域を中心に五万四千世帯に広がった。鉄道やバスが運休、多くの道路が通行止めとなり、交通網も遮断。各地に設けられた避難所には一時九五〇〇人が集まり、不安な時間を過ごした。住宅被害は全壊二六一棟、半壊二二一八棟、一部損壊七万三二二九棟を数えた。宇都宮市では清原地区の体育館、野球場、小中学校に被害が出た。また、飛山城史跡公園内にある復元建物五棟の壁が壊れたり、崖地七か所が崩落するなど文化財にも被害が出た。

東日本大震災に伴う福島第一原発事故は、県内にも広範囲に放射能汚染をもたらし、宇都宮市下岡本町の県保健環境センターでは三月十五日、午前一〇時の空間放射線量が平常の三〇倍に当たる毎時一・三二八マイクロシーベルトに上昇した。

スポーツでは二〇〇八（平成二〇）年、栃木県グリーンスタジアムを本拠地とするプロサッカークラブの栃木SCはJリーグ二部（J2）への昇格を決め、自

転車ロードレースのプロチーム・宇都宮ブリッツエンが発足した。二〇一〇年、バスケットボール男子日本リーグプレーオフファイナルでリンク栃木が初優勝し、市中心部で祝勝パレードが実施され、約一万人であふれ返った。

教育面では二〇一二（平成二四）年四月から、児童生徒の学校生活への適応と学力保障を目的として「小中一貫教育」が開始され、地域の活動をこれまで以上に有効に生かすこととした。

文化面では二〇一三（平成二五）年一月、蒲生君平没後二〇〇年祭として、寛政の三奇人からのメッセージのシンポジウムが開催され、林子平（江戸生まれで仙台藩士）・高山彦九郎（今の群馬県太田市生まれ）・蒲生君平の三人から何を学び伝えるかが議論された。

この間、市が全国に向け発信した「餃子のまち・カクテルのまち・ジャズのまち・自転車のまち・妖精のまち」は知名度に差を含めながらも徐々に浸透してきている。

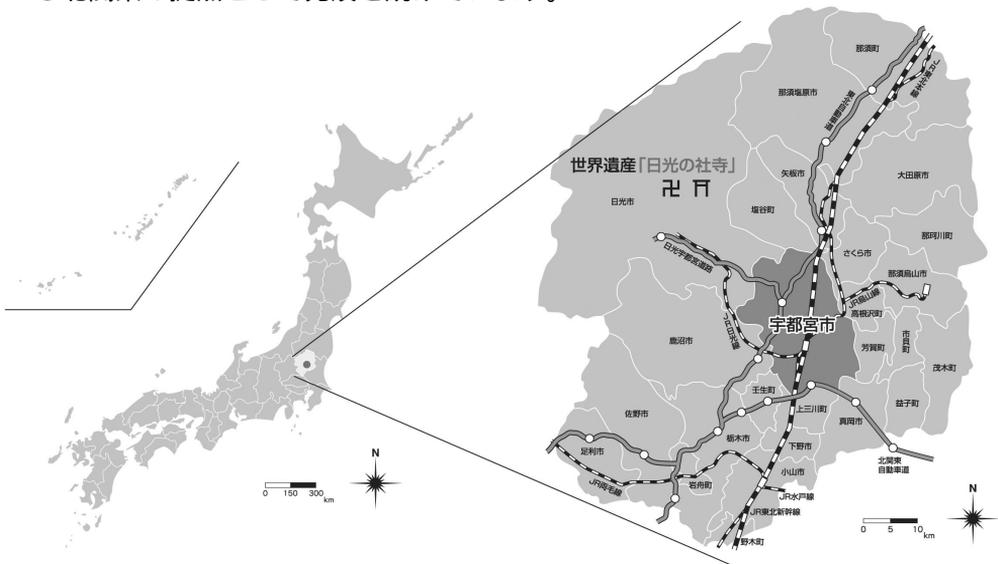
データでみる うつのみや 2014

宇都宮市の位置

宇都宮市は、東京から北に約100キロメートル、栃木県のほぼ中央に位置しています。

北西に日光連山、北に那須連山を望み、東に鬼怒川の清流、南には広大な関東平野がひらけ、美しく豊かな自然に恵まれています。

東北新幹線、東北自動車道、北関東自動車道、鉄道各線が貫通する交通の要衝で、栃木県の県庁所在地としてばかりでなく、経済、文化機能が集積する北関東の拠点として発展を続けています。



市制施行	明治29年4月1日
位置	東経 139° 52' 58" 北緯 36° 33' 19" (宇都宮市役所が基準)
面積	416.84平方キロメートル
広がり	東西 23.97キロメートル 南北 29.53キロメートル
海拔	116.07メートル(宇都宮市役所が基準)
人口	総数 516,513人 男 257,125人 女 259,388人 世帯数 218,388人 (平成26年1月1日現在)

市域の変遷



宇都宮市は明治29年に市制を施行したのち、数回に分け部分的に編入してきました。

そして昭和28年に施行された「町村合併促進法」により全国的に合併が一気に加速する中で、宇都宮市も11町村との合併を行い、大幅に市域が拡大しました。

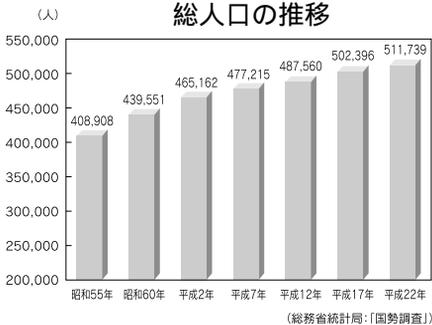
さらに平成19年3月31日には、日常生活面などで一体性の強い上河内町、河内町と合併し、現在の市域になりました。

凡例

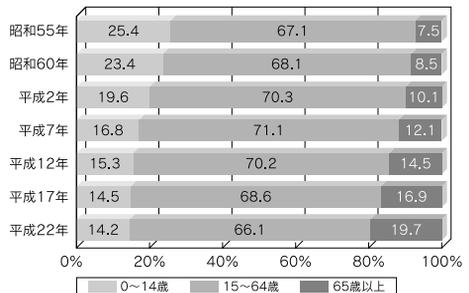
- ① 明治29年4月～
- ②～⑨ 昭和9年1月～
昭和28年6月
- ⑩ 昭和29年8月1日
- ⑪ 昭和29年8月10日
- ⑫ 昭和29年9月25日
- ⑬ 昭和29年10月1日
- ⑭ 昭和29年11月1日
- ⑮ 昭和30年4月1日
- ⑯ 昭和32年4月1日
- ⑰ 平成19年3月31日

人口の推移

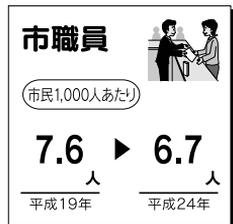
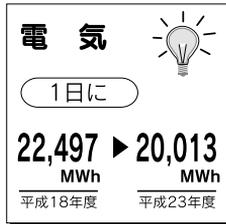
総人口の推移



年齢3区分別人口割合の推移



市民の暮らし



参考資料・文献

- 『栃木県史』
『宇都宮市史』
『改訂つつのみやの歴史』
『宇都宮興廃記』
『ふるさと栃木県の歩み』
『下野国誌』 下野新聞社
『栃木県の歴史』 山川出版社
『栃木県歴史年表』 下野新聞社
『図解・栃木県の歴史』 河出書房
『日本の名族』 新人物往来社
『物語藩史』 新人物往来社
『宇都宮の歴史』 落合書店
『物語・栃木県史』 栃木新聞社
『戊辰戦争事典』 新人物往来社
『栃木県の百年』 山川出版社

復刻版 まんが うつのみやの歴史

2014年3月28日 復刻版発行

漫 画 広井てつお
シナリオ 島 遼伍
発 行 特定非営利活動法人宇都宮まちづくり推進機構
企画・監修 総務部会 宮再発見専門委員会
制 作 下野新聞社
印 刷 (株)井上総合印刷

この本は1996年4月1日発行の初版本を復刻したものです。

宇都宮市 1996